



グローバル教育センターの沿革 : 設置30周年にあたって

實平, 雅夫

(Citation)

神戸大学留学生教育研究, 8:65-87

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100488651>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100488651>



〔特別寄稿〕

グローバル教育センターの沿革 —設置30周年にあたって—

實平 雅夫

留学生センター 国際教育総合センター グローバル教育センター 神戸大学120年史

1. はじめに

神戸大学は1902（明治35）年の創立から120年目を迎えた2022（令和4）年に、神戸大学創立120周年記念事業の一つとして神戸大学120年史編集委員会を設置して『神戸大学120年史』を編むこととなり、2026（令和8）年4月以降の刊行に向けて編集が進められている。一方、グローバル教育センターは2023（令和5）年に設置から30年目を迎えた。そこで、本稿ではこの機会に『神戸大学120年史』の編集方針である「神戸大学の通史である『神戸大学百年史』を踏まえたうえで、国立大学法人化（2004（平成16）年度）以降の約20年間を中心に叙述する」に倣って、グローバル教育センター⁽¹⁾について2002（平成14）年度）ごろからの約20年間を中心に叙述することにより、設置30周年を刻みたい。

なお、本稿は、『神戸大学120年史』のために当センター専任教員が分担執筆した文章をもとに、筆者が編集・加筆したものである。第2・4・5章を實平雅夫教授、第3章第1節を齊藤美穂准教授、同第2節を朴鍾祐教授、同3節を黒田千晴准教授が担当している。

2. センターの歩み

1993（平成5）年4月に学内共同教育研究施設として「留学生センター」が設置され、2004（平成16）年4月の国立大学法人化、その後2回の改組を経て、神戸大学における外国人留学生受け入れ、留学生教育とその調査研究、および留学生交流事業は着実に充実・発展してきた。2001（平成13）年度から2022（令和4）年度までの約20年間、神戸大学、兵庫県および国内における外国人留学生数は表1に示すように推移してきた。

日本の留学生施策は、知的国際貢献の一環であった21世紀初頭に留学生10万人を受け入れる計画（いわゆる「留学生受け入れ10万人計画」1983（昭和58）～2003（平

成15) 年度) を経て、グローバル化戦略の一環であった「留学生30万人計画」(2008 (平成20) 年～ 2020 (令和2) 年度) に引き継がれた。

表1 神戸大学、兵庫県および国内における外国人留学生の推移
(2001-2022年度) (単位: 名)

年 度	神戸大学	兵庫県	国 内		主な世界情勢
2001	713	2,543	78,812		アメリカ同時多発テロ事件
2002	797	3,024	95,550		イラク戦争
2003	868	3,522	109,508		鳥インフルエンザの流行
2004	950	3,752	117,302		スマトラ島沖地震
2005	963	3,967	121,812		
2006	954	3,721	117,927		
2007	951	3,737	118,498		世界金融危機
2008	1,011	4,017	123,829		
2009	1,043	4,240	132,720		
2010	1,146	4,637	141,774		東日本大震災
2011	1,108	4,959	138,075	163,697	「国内」は「出入国管理及び難民認定法」の改正により2011年度以降、左列は「高等教育機関」、右列は「日本語教育機関」を含む。
2012	1,132	5,128	137,756	161,848	
2013	1,123	4,901	135,519	168,145	
2014	1,096	5,852	139,185	184,115	
2015	1,152	7,007	152,062	208,379	
2016	1,196	8,485	171,122	239,287	
2017	1,201	9,398	188,384	267,042	
2018	1,304	11,146	208,901	298,980	
2019	1,399	11,446	228,403	312,214	「コロナ禍」
2020	1,227	10,729	218,783	279,597	ロシア・ウクライナ危機
2021	1,107	10,756	201,877	242,444	
2022	1,205	10,633	181,741	231,146	

各年度5月1日現在。独立行政法人日本学生支援機構(2003年度以前は文部科学省)「外国人留学生在籍状況調査結果」(各年度)より

このような背景にあって、「留学生センター」は2016(平成28)年4月に国際連携推進機構のもとで「国際教育総合センター留学生教育部門」に改められ、留学生交流推進・日本語等教育・相談指導の三つの体制は維持した。同時に、新たに「ブ

ログラムコーディネート部門」が設けられて、ヨーロッパ（EUエキスパート人材養成プログラム⁽²⁾、日欧学生交流プロジェクト⁽³⁾、ジャンモネCoE⁽⁴⁾、EU研究修了証プログラム⁽⁵⁾）、アジア（東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム⁽⁶⁾、ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成⁽⁷⁾）、そして、日本（現代日本プログラム⁽⁸⁾）を学ぶ各プログラムを進めてきた。これにともなう、センターに設置されていた事業委員会は2016（平成28）年3月の会議を最後に、その役割を終えた。

さらに、2022（令和4）年4月には大学教育推進機構に移管されて「グローバル教育センター留学生教育部門」に改組された。同時に、「プログラムコーディネート部門」は廃止され、神戸GCPプログラムと全学交換留学・全学インターンシップといった、短期・長期派遣プログラムを一元化する「海外派遣教育部門」が新たに設置された。

歴代のセンター長・副センター長、教員の配置、センターの事務を所掌する留学生課・国際交流課の歴代課長・課長補佐については表2、表3、表4のとおりである。また、国際教育総合センターの目的、組織、運営などは「神戸大学国際連携推進機構国際教育総合センター規程」によって定められ、グローバル教育センターについては「神戸大学大学教育推進機構規則」によって定められている。

2023（令和5）年4月現在、センターの組織は下の図1の通りである。

図 1

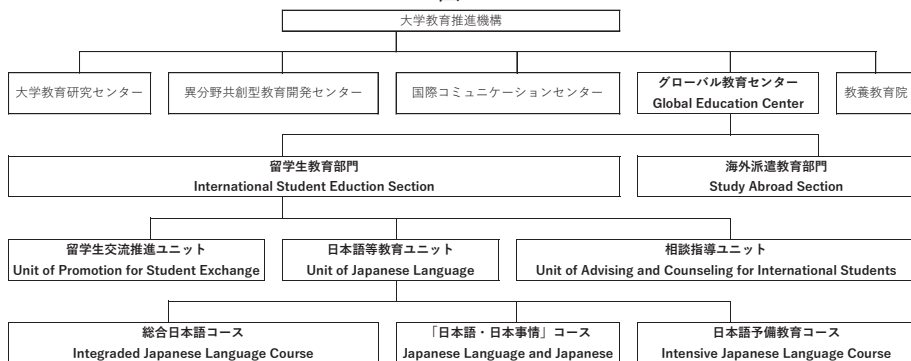


表2 留学生センター・国際教育総合センター・グローバル教育センターの歴代センター長・部門長、副センター長、副部門長 (2001-2022 年度)

	氏名(所属)		在任期間
センター長	宗像 正幸	(経営学研究科教授)	2001. 4 - 2003. 3
	堀田 博	(医学研究科教授)	2003. 4 - 2005. 3
	中西 泰洋	(留学生センター教授)	2005. 4 - 2007. 3
	同 上	(再 任)	2007. 5 - 2009. 3
	同 上	(再々任)	2009. 4 - 2011. 3
	西尾 茂	(海事科学研究科教授)	2011. 4 - 2013. 3
	同 上	(再 任)	2013. 4 - 2015. 3
	河合 成雄	(留学生センター教授)	2015. 4 - 2016. 3
部門長	河合 成雄	(国際教育総合センター教授 授留学生教育部門長)	2016. 4 - 2018. 3
	関根 由紀	(法学研究科教授 プログラムコーディネーター部門長)	2018. 4 - 2020. 3
	河合 成雄	(国際教育総合センター教授 留学生教育部門長)	2020. 4 - 2022. 3
	河合 成雄	(グローバル教育センター教授 留学生教育部門長)	2022. 4 -
	林 良子	(国際文化科学研究科教授 海外派遣教育部門長)	2022. 4 -
副センター長	中西 泰洋	(留学生センター教授)	2000.10 - 2002. 9
	同 上	(再 任)	2002.10 - 2004. 9
	同 上	(再々任)	2004.10 - 2005. 5
	實平 雅夫	(留学生センター助教授)	2005. 6 - 2007. 5
	同 上	(再 任)	2007. 6 - 2009. 5
	同 上	(再々任)	2009. 6 - 2011. 5
	實平 雅夫	(留学生センター教授)	2011. 6 - 2013. 5
	同 上	(再 任)	2013. 6 - 2015. 5
	高梨 信乃	(留学生センター准教授)	2015. 6 - 2016. 3
副部門長	坂井 一成	(国際文化科学研究科教授 プログラムコーディネーター部門長)	2016. 4 - 2018. 3
	河合 成雄	(国際教育総合センター教授 留学生教育部門長)	2018. 4 - 2020. 3
	金京 拓司	(経済学研究科教授 プログラムコーディネーター部門長)	2020. 4 - 2022. 3
	齊藤 美穂	(グローバル教育センター准教授)	2022. 4 -

2023年3月時点

表3 センター教員の配置 (2002-2023年度)
(各年度4月1日現在、2007年度より「助教授」は「准教授」に改称、単位:名)

組 織 名	年度	専 任 教 員							合計
		教授	准(助) 教授	特命 准教授	講師	特命 講師	特命 助教	助手	
留学生センター	2002	4	4						8
	2003	4	5						9
	2004	3	5					1	9
	2005	2	7						9
	2006	3	6						9
	2007	3	6						9
	2008	3	6						9
	2009	2	6						8
	2010	2	7						9
	2011	5	3						8
	2012	4	4						8
	2013	4	4		1				9
	2014	5	2		2				9
	2015	5	2		2				9
国際交流推進機構 国際教育総合センター (各年度の一段目は留学生教 育部門、二段目はプログラム コーディネート部門、三段目 は所属部門無)	2016	5	2		2				9
				2		3			5
	2017	4	2		2		1G		9
				3		1			4
	2018	4	2		2		1G		9
			1	1		2			4
	2019	4	2		2				8
			1	1		2			4
	2020	4	2		2	1G			9
			1	1		2			4
	2021						1		1
		4	2		2		1G		9
			1	1		2			4
							1		1
大学教育推進機構 グローバル教育センター (各年度の一段目は留学生教 育部門、二段目は海外派遣教 育部門、三段目は所属部門無)	2022	4	2		2		1G		9
			1K			1	1神		3
	2023	4	2		2		1G		9
				1		1	1神		3
						1			1

GはG-Navi：兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（国際教育・地域社会における国際交流、高度グローバル人材育成）日本学生支援機構

KはKUPES：EUエキスパート人材養成プログラム（Kobe University Programme for European Studies）

神は神戸GCP：神戸グローバルチャレンジプログラム（Kobe Global Challenge Program）

表4 留学生課・国際交流課の歴代課長・課長補佐（1993-2023年）

		氏名	在任期間
課長	留学生課	桑田 卓三	1993.4 - 1995.3
		坪内 陽典	1995.4 - 1999.3
		長尾 和典	1999.4 - 2001.3
		福留 純郎	2001.4 - 2004.3
		岩本 速雄	2004.4 - 2007.3
		松本 文昭	2007.4 - 2009.3
		井口 美津子	2009.4 - 2011.3
		敏森 広志	2011.4 - 2013.3
		木本 孝美	2013.4 - 2015.3
	国際交流課	中野下 勉	2015.4 - 2018.3
		永野 康彦	2018.4 - 2020.3
		四方 陽介	2020.4 - 2023.3
		浦田 勇二	2023.4 -
課長補佐	留学生課	藤本 英喜※	1993.4 - 1994.3
		吉岡 矜持※	1994.4 - 1996.3
		米田 八千代	1996.4 - 1999.3
		(不在)	1999.4 - 2002.3
		松本 文昭※	2002.4 - 2004.3
		中川 寛	2004.4 - 2004.12
		松本 文昭	2005.1 - 2006.3
		井口 美津子	2006.4 - 2009.3
		藤井 昌宏	2009.4 - 2012.3
		寺川 則彦	2012.7 - 2013.4
		上岡 隆司	2013.7 - 2015.3
	国際交流課	上岡 隆司	2015.4 - 2017.3
		有働 雄二	2017.4 - 2019.3
		柏木 秀之	2019.4 - 2022.3
		後藤 直美	2022.4 -

2023年4月時点、※職称は「専門員」

なお、1986（昭和61）年に地域社会との連携協力を強めるために全国に先駆けて発足した兵庫地域留学生交流推進会議は、神戸大学が事務局を務めて、日本の留学生施策にも大きな影響を与えてきたが、2023（令和5）年3月をもって終了した。

3. 活動の展開

改組による変遷を経ながらも、センターの留学生教育部門の教員は、「日本語等教育」、「留学生交流推進」、「相談指導」という主たる業務ごとにユニット（旧部門）を構成し、全学の留学生の教育及び各種支援のための様々な活動を行ってきた。

以下、留学生センターの流れを汲む留学生教育部門について述べる。プログラムコーディネート部門と海外派遣教育部門については、『神戸大学120年史』に記述を委ねる。

3-1. 日本語等教育ユニット

センターの主たる業務の一つは、留学生に対する日本語教育である。ここには全学の留学生を対象とした教育、文部科学省（旧文部省、以下同）委託による日本政府奨学金留学生（国費留学生）の教育、そして短期プログラムによる受入れ留学生への教育の3つが含まれる。まず、交換留学生を含む全学の留学生を対象に、日本語科目を提供している。表1からわかるように、2001（平成13）年度には700名程度だった本学の留学生数は、この20年の間に1,200名超となっている。その大半は大学院生ないし大学院への進学を志す研究生だが、特に後半10年間に増加しているのは交換留学生である。彼らは本来の専門分野を問わず、半年ないし一年という限られた本学での留学期間中、日本語を中心に学ぶことも少なくない。日本語学習目的やレベルといった背景の異なる交換留学生の多様なニーズに対応すべく、センターでは日本語等教育ユニットを中心に、随時カリキュラムの見直しを行ってきた。また、レベルチェックテストの整備（2016（平成28）年度からはオンライン化）、シラバスの日英語完全バイリンガル化、日英語による日本語学習案内（リーフレット）の作成を進めるなど、交換留学生がスムーズに本学での日本語学習を開始し、留学後には単位互換認定の申請ができるよう、留学前後も視野に入れた日本語学習環境を整えてきた。

センターはまた、文部科学省の国費外国人留学生制度により来日した国費留学生に限られてはいたが、設置当初より、留学生の受入れ先にもなってきた。2002（平成14）年度以降では、文部科学省の国費外国人留学生制度により来日した国費留学生のうち、日本語の予備教育を必要とする研究留学生（2022（令和4）年度までに333名）、教員研修留学生（2022（令和4）年度までに133名）及び日韓共同理工系学部留学生プログラム生（同プログラムの終了により新規の受入れ最終年度となった2019（平成31）年度までに108名）を、いずれも半年間受入れて、後に続く専門的な学修に備えるための集中的な日本語教育を行ってきた。さらに、日本語・日本文化研修留学生（2004（平成16）年度より受入れ開始。2022（令和4）年度までに123名）を毎年受け入れて、彼らの研究に対する指導も行っている。彼らの中には大学院進学という形で本学に還流する例も出てきている。（なお、2022（令和4）

年後期からは、センターでの交換留学生の受入れも始まっている。）（表5）

表5 センター所属文部科学省（旧文部省）国費外国人留学生

研究留学生		教員研修留学生		日韓共同理工工系 学部留学生事業				日本語・日本文化 研修留学生		
年度	人数	年度	人数	事業	年度	期	人数	年度	期	人数
2002	25	2002	11	第1次	2000	1期	5	2004	1期	12
2003	22	2201	6		2001	2期	5	2005	2期	12
2004	18	2002	9		2002	3期	6	2006	3期	10
2005	27	2003	5		2003	4期	7	2007	4期	5
2006	15	2004	7		2004	5期	5	2008	5期	4
2007	22	2005	8		2005	6期	7	2009	6期	5
2008	23	2006	3		2006	7期	6	2010	7期	3
2009	19	2007	7		2007	8期	6	2011	8期	5
2010	18	2008	8		2008	9期	6	2012	9期	7
2011	12	2009	7		2009	10期	5	2013	10期	9
2012	17	2010	7	第2次	2010	11期	6	2014	11期	7
2013	17	2011	6		2011	12期	3	2015	12期	7
2014	5	2012	8		2012	13期	7	2016	13期	5
2015	16	2013	7		2013	14期	4	2017	14期	7
2016	9	2014	4		2014	15期	7	2018	15期	7
2017	15	2015	10		2015	16期	6	2019	16期	6
2018	14	2016	4		2016	17期	7	2020	17期	1
2019	10	2017	5		2017	18期	7	2021	18期	7
2020	3	2018	8		2018	19期	7	2022	19期	4
2021	15	2019	5		2019	20期	6	2023	20期	3
2022	11	2020	5							
2023	11	2021	6							
※1999年度以前 は『神戸大学百 年史』を参照		2022	4							
		2023	5							
		※1999年度以前 は『神戸大学百 年史』を参照								

さらに、センターは短期プログラムを開講し、留学生の受入れを行っている。2003（平成15）年度に立ち上げた「神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラム」は、コロナ禍による中止を余儀なくされた2020（令和2）年度を除いて、毎年開講され、2022（令和4）年度までに569名の留学生を受け入れてきた（ただし、2021（令和3）年度・2022年度はオンライン開講）。これは、協定校との連携強化、交流促進を期して、本学協定校で日本語を学ぶ学生を対象に招待ベースで開講するものである。また、まだ受入れ実績の少ないオセアニア地域における本学のプレゼンス向上のため、2019（平成31・令和元）年度にはオーストラリアの大学で日本語を学ぶ学生を

対象とした短期プログラムを創設し、コロナ禍の2020（令和2）年度にもオンラインで開講された。これらの短期プログラムは留学ビザなしの受入れではあるものの、いずれのプログラムからもすでにその後の交換留学につながる動きが見られる。（表6）

センターではほかに、留学生が国内学生と共に学ぶ国際共修の場として、「神戸大学国際学生交流シンポジウム」を開催している。これは日英語によるシンポジウムで、この企画・運営の過程自体も国際協働の場となっている。1995（平成7）年度の開始当初は、センター教員の助言のもと、有志の学生から成る実行委員により実施されてきたが、2013（平成25）年度からは全学共通授業科目「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」として科目化され、本学における先駆的な国際共修科目となっている（黒田・ハリソン2016；黒田・ハリソン2021）。

表6 センターの日本語プログラム生

夏期日本語・日文化研修プログラム		KOBE JAPANESE PROGRAM JANUARY	
年度	人数	年度	人数
2003	14	2019	15
2004	20	2020	16
2005	39	2021	7
2006	42	2022	10
2007	40	※2020年度はコロナ禍のためオンライン開催	
2008	38		
2009	30		
2010	41		
2011	36		
2012	37		
2013	35		
2014	32		
2015	30		
2016	23		
2017	21		
2018	18		
2019	48		
2020	0		
2021	12		
2022	8		
2023	14		

※2020年度はコロナ禍により中止

3-2. 留学生交流推進ユニット

主な活動は、ネットワーク構築及び強化事業、留学生キャリア教育事業、地域交流・国際交流促進事業、日本文化理解・地域交流事業の四つの事業である。

ネットワーク構築及び強化事業は、国内・海外の留学生同窓会への支援・協力を行っている。国内同窓会としては、2006（平成18）年に日本国内留学生同窓会の発足を支援し、それ以来毎年2回（7月大阪・2月東京）の同窓会の開催に協力している。卒業・修了後日本に在住する卒業生が増えるにつれて、居住地域の特性を生かし活性化を図るため、2019（平成31）年には国内留学生同窓会を東日本留学生同窓会と西日本留学生同窓会の二つに分けて組織を改編した。両同窓会は大学とそれぞれ連携して、東日本はOB・OG訪問への協力、西日本は大学での就職セミナーなどを通して在学生の日本国内就職を支援している。

海外留学生同窓会は、1989（平成元）年に韓国同門会、1995（平成7）年に台湾同窓会が自発的に組織されていたが、その後留学生センターが卒業留学生と協力しつつ、2006（平成18）年に中国、2008（平成20）年にベトナムおよびインドネシア、2009（平成21）年にタイ、2010（平成22）年にマレーシアおよびシンガポール、2011（平成23）年に欧州およびミャンマー、2012（平成24）年にラオス、2014（平成26）年にモンゴル、そして2016（平成28）年にカンボジアでの同窓会が発足した。神戸大学海外同窓会は現在までに13の国と地域にあって、本学が海外で行う研究教育の支援の一翼を担ってきた。この海外ネットワークは、毎年10月に本学で実施される留学生ホームカミングデイを通して可視化されている。2002（平成14）年より実施してきた留学生ホームカミングデイは2023（令和5）年には第20回が開催されて、世界的に活躍している卒業生による特別講演、現役留学生と卒業・修了生とのネットワーキング、海外同窓会とのネットワーク強化、大学関係者や地域との交流を促進している。

以上のように卒業生を含む留学生を中心としたネットワーク構築事業は、卒業・修了したOB・OG同士を繋ぎ、また大学との関係性を持続させる意味が大きい。それによって神戸大学の海外のネットワークの可視化につながるのである。可視化されたネットワークによって神戸大学の教育・研究に大きく寄与できる仕組みづくりにつながるものといえよう。教育の面においては海外インターンシップ実施、交換留学生への支援に、さらに研究の面においては大学間学術交流、共同研究などにも大きく貢献し、神戸大学のプレゼンスを高める効果もあげられる。

留学生キャリア教育事業は、2002（平成14）年頃より在学中の留学生に向けた就職支援を行ってきており、2008（平成20）年から日本での就職を希望する留学生に向けた「グローバルキャリアセミナー」を実施している。同セミナーでは、1年に計9回の連続講座を通して日本での就活に必要な知識や、OB・OG 留学生の体験談、企業の採用担当者等からのアドバイスを聞く機会を提供している。また、日本企業と実際に交流できる場として合同企業説明会「留学生のためのグローバルジョブフェア」を2008（平成20）年より実施している。このキャリア支援事業は、拡大を続けており、2020（令和2）年からは東日本留学生同窓会と連携して、社会人のためのセミナー・交流会を実施している。また、卒業・修了予定者の中で日本企業内定者に向けたセミナーも開催している。このように大学独自で始まった取り組みは、2021（令和3）年に文部科学省「留学生就職促進プログラム」に採択されたことによってさらに広がって、本学キャリアセンターを中心に取り組んでいる「神戸高度

人材育成プログラム」に対して、セミナーやビジネス日本語等科目の提供を行っている。

留学生のキャリア教育を通して、国内外に活躍の場を広げることができる高度人材育成につながる。多様な言語と文化を背景に高度人材である留学生は日本社会のみならず、母国と日本をつなぐ役割を果たし、さらに世界で羽ばたけるようにキャリア教育の一翼を担うものである。

地域交流・国際交流促進事業は、日本学生支援機構から2016（平成28）年度より受託して行っている事業「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業」（G-Navi）を中心に進められている。G-Naviでは、本学をはじめとする兵庫県内の大学（主に「大学コンソーシアムひょうご神戸」参加校）に在学中の留学生およびその家族、地域住民、企業を対象としたセミナーや講座等を開いて、地域における国際交流を活性化させてきている。2019（平成31）年度からは同事業の2期目が2023（令和5）年度までの5年間実施されている。事業としては、1）学習・研究支援、2）キャリア支援、3）文化交流、4）生活支援の四つの柱がある。1）では、日本語学術文章作成支援として「アカデミックライティングラボ」、将来大学等に就職を希望する留学生に向けた「アカデミックキャリア支援セミナー」の実施がある。2）では、日本で就職を希望する留学生に向けたセミナーや就職活動に必要な日本語能力養成のための日本語講座「中級日本語学者のためのビジネス日本語入門セミナー」や日本企業との交流会がある。3）では、留学生講師の言語・文化に関する理解を深める「多文化多言語ワークショップ」や日本人ボランティアグループによる神戸地域・防災理解のためのセミナー、新聞社訪問などの見学体験、中国語、韓国語、英語、イタリア語などの学習者を対象に当該言語を母語とする留学生との言語交流活動「ランゲージサロン」を実施している。4）では、生活のための日本語教室や災害・防災理解セミナー・ワークショップがある。また「やさしい日本語」セミナーを行って、日本社会の様々な情報発信や外国人との円滑なコミュニケーションのために地域の日本人や留学生のための「やさしい日本語」を知る機会を提供している。

このように「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業」（G-Navi）は、他の機関と連携しつつ学外での取り組みを行うものであるが、神戸大学がもつ教育的リソースを存分に活かし、広く留学生教育を行うとともに地域社会の国際交流を担うものである。

日本文化理解・地域交流事業においては、留学生を対象とした日本文化見学旅行

(年2回実施)を行っている。2014(平成26)年より本学農学研究科の丹波篠山フィールドステーションと連携し、丹波篠山地域での見学体験旅行を実施している。丹波篠山で活動をする団体や地域の人々との交流を行って、画一的な日本像ではなく、留学生が多様な日本の地域について理解を深められるよう支援している。

3-3. 相談指導ユニット

1993(平成5)年の留学生センター設置当初より、留学生が留学中に直面する修学及び生活上の諸問題や異文化適応等に関する相談に応じる体制が確立されている。1995(平成7)年に発生した阪神淡路大震災により被災した留学生の救援活動などを契機に、危機管理体制の構築にも尽力している。

既述の通り、近年神戸大学に在籍する留学生は、学部正規生、交換留学生、研究生、大学院生と様々な属性を持ち、留学の動機や目的も多様であり、「留学生」と一括りにすることが難しくなっている。このような留学生の多様化に対応すべく、全学部・全研究科に所属する新入留学生を対象に、留学生の属性ごとに留学目的や留学形態に沿った情報提供を行うべくオリエンテーションやガイダンスを実施している。

留学生から寄せられる相談内容は、修学上の問題、心身の健康問題、経済的な問題、指導教員や研究室などにおける人間関係の問題、異文化適応の問題など多岐にわたるが、特に2010(平成22)年代以降、神戸大学の留学生の大部分を占める中国をはじめとする東アジア諸国などと日本との間の経済格差が格段に小さくなっていることから、経済的な問題に関する相談は減少傾向にある。一方で、特に大学院レベルの留学生からは修学上の問題や指導教員や研究員のメンバーとの人間関係の問題、さらに学業不振などから心身の健康を害し、深刻な状況に陥るケースもあり、このような場合は、留学生の所属部局の教職員や学内の関係部門、必要に応じて附属病院や在外公館との連携を図って対応している。

相談指導関係でもっとも関係の深い事柄としては、2013(平成25)年に障害者差別解消法が施行されたこととともなって、障害を持つ留学生に対する合理的配慮やサポート体制の拡充が図られたことである。2013(平成25)年の障害者差別解消法の施行以降、コロナ禍で一時学生交流が中断していた時期をのぞいて、合理的配慮の対象となる複数名の交換留学生が毎学期センターの日本語授業を履修している。インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンターの指導のもとで、定期的に合理的配慮に関するFDを開催するなど、障害を持つ留学生に対する合理的配慮やサポー

ト体制の構築と教職員に対する理解の促進を図っている。

なお、留学生センター設置直後に創設された留学生支援・交流サークル「Truss (神戸大学公認課外活動団体)」や、外国人研究者・留学生の家族の支援や交流を行うボランティア団体「KOKORO-Net in 神戸」との連携も継続して実施している。

神戸大学では、2018 (平成30) 年にダイバーシティ推進宣言を制定し、ジェンダー、性的指向・性自認、エスニシティ、文化、宗教、言語、出自、年齢、学歴、心身の特徴などの属性や特性にかかわらず人間として尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる学習・教育・研究・就労環境を整備する取り組みを進めている。文化・言語など、多様な背景を持つ留学生が、神戸大学の構成員として個々の多様性を生かして学習・研究に励み、充実した留学生活を送ることができるようハード・ソフトの両面で環境を整備していくことが重要であると考える。

4. 「コロナ禍」を乗り越えて

2020 (令和2) 年の初頭から約3年間に渡って世界を覆った「コロナ禍」であるが、日本学生支援機構によると、表1にみられるように「留学生30万人計画」は2019 (平成31) 年に312,214人となって水準に達したものの「コロナ禍」による入国制限のため2022 (令和4) 年には231,146人に減少した。神戸大学でも2019 (平成31) 年の1,399人から2021 (令和3) 年には1,179人に減少した。一方で国内における海外への日本人留学生は最も多かった2018 (平成30) 年度の115,146人から「コロナ禍」の感染対策の影響もあり、2022 (令和4) 年度には1,487人に急減した。

センター長を会長とする「神戸大学外国人留学生後援会」では、生活が困窮している外国人留学生に対する貸付金事業において、いち早く2020 (令和2) 年度から「新型コロナウイルス感染症対策特別貸付」を開始して貸付限度額を20万円とし、返済期限を在籍課程等の卒業 (修了) 日に設定した。この給付は「コロナ禍」がほぼ終息した2022 (令和4) 年度をもって終了したが、従来の「特別貸付」の貸付限度額を、それまでの10万円から15万円に引き上げて、引き続き外国人留学生の生活の困窮に対応を続けている。

加えて、国立大学をとりまく財政的な環境が厳しさを増すなかで「優秀な留学生が安心して神戸で学ぶことができる」修学環境の整備強化を目指すものとして、2020 (令和2) 年10月には神戸大学西日本留学生同窓会・神戸大学東日本留学生同窓会の協力のもとで「神戸大学基金外国人留学生教育支援事業」を立ち上げ、留学生への奨学金給付を主な目的として受け入れる窓口としている。

上記の取り組みに賛同した支援者からの寄付だけでなく、コロナ禍が日本国内に広まった2020（令和2）年4月には、マスク不足が解消されない状況にあって、中国人留学生・卒業生ら232名からマスク25,000枚が神戸大学附属病院に寄贈されるなど、本学と卒業・修了留学生との連携によって、困窮する留学生たちを含む本学への支援が続けられている。

5. 新たな活動の展開へ

2022（令和4）年度5月時点では、本学には84の国および地域から1,229名の外国人留学生が在籍しているが、アジアからが80%を超え、その70%は中国からである。また、80%は大学院に在籍する留学生である。2023（令和5）年4月27日に政府の教育未来創造会議による「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（第二次提言）」において、2033（令和15）年までに外国人留学生を40万人受け入れ、日本人留学生を50万人送り出すことが掲げられている。

これまで、センターが取り組んできた、大学院における高度人材育成、各プログラムにおける萌芽的な取り組みから完成度の高い取り組みへの過程は、各部局における事業展開のモデルになっている。本学の留学関連の事業を支える「仕組み」を持ち、その「仕組み」を他部局の事業にも活かす中核的な役割を担っている。

また、センター設置以来、年1回の研究紀要の刊行と、合計23巻の日本語教育開発教材の出版に努めてきた。同時に、「コロキウム」（研究討論会・講演会）を企画し、専門家やほかのセンター関係者などを交えて研究交流を毎年行っている。研究活動にあっても、個人研究あるいは共同研究として、科学研究費補助金やそのほかの研究助成を毎年獲得して、研究成果の還元を通して学術的貢献とともに社会的貢献を果たしている。

今後は、受け入れおよび送り出し留学生数の増加・質的多様化への対応、キャンパス国際化のさらなる推進、留学生の地域交流、日本語日本文化教育の拡充、留学前後のフォローアップ、そして短期・長期海外派遣プログラムの充実など課題は多い。課題の遂行は人的、経済的リソースの拡充を伴うものであり、それなくしては「仕組み」の活用は行えない。また、それには人的資源の拡充によって基礎となる研究活動の充実が求められる。

注

(1) 改組による名称の変遷はあるものの、以下本稿において「センター」と言及す

るのはグローバル教育センター及びその前身となる二つのセンターである。ただし、本稿で取り上げるのはそのうち、主として外国人留学生に対する教育等を行う部門の活動を中心とする。

- (2) KUPES, Kobe University Programme for European Studies
- (3) ICI-ECP, The Industrialised Countries Instrument Education Co-operation Programme [Double Degree projects]
- (4) Jean Monnet Centre of Excellence
- (5) Undergraduate/ Graduate Certificate in European Union Studies
- (6) CAMPUS Asia, Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia
- (7) Education of Global Medical and Health Science Leaders in the Coming Generation in Cooperation and Collaboration with ASEAN Countries
- (8) Educational Program on Current Japan、その他に「現代日本プログラム」ではないが、Kobe University Study Programがある。

参考文献

センターが行ってきた個々の活動の詳細については、以下の文献を参照されたい。

2002（平成14）～2022（令和5）年度に、『神戸大学留学生センター紀要』『神戸大学留学生教育研究』『神戸大学大学教育研究』に掲載されたもの、および『神戸大学百年史 部局史 神戸大学部局史』『学内共同利用施設等の組織に係る評価結果 留学生センター』『留学生センターファクトブック』『学内共同利用施設等の組織に係る評価結果 留学生センター』は以下の通りである。

浅津嘉之（2017）「文章産出に対する学習者の考え方の変化とeピア・レスポンスの役割：日本語文章表現授業におけるある学習者の原稿作成の過程を辿って」『神戸大学留学生教育研究』1. 27-49.

池村彰子（2022）「神戸大学における留学生就職支援の新たな取り組み：理系留学生向けセミナー実践報告」『神戸大学大学教育研究』30. 1-19.

乾美紀（2011）「大学連携を通じた国際教育交流の取り組み：学生の海外派遣プログラムの評価を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』17. 19-42.

岡田亜矢子（2014）「日本語クラスにおけるディスカッションへの意識に関する一考察：留学生に対するアンケート結果から」『神戸大学留学生センター紀要』

20. 39-60.

- 奥山和子 (2004)「情報伝達性重視の作文指導：論理関係明示子の概念を使った指導」『神戸大学留学生センター紀要』10. 21-37.
- 奥山和子 (2014)「留学生の移動と受け入れに関する考察：神戸大学人間発達環境学研究科における中国人留学生アンケート調査結果より」『神戸大学留学生センター紀要』20. 21-38.
- 奥山和子 (2015)「もうひとつのグローバル教育について：留学に対する大学生の意識調査から」『神戸大学留学生センター紀要』21. 67-85.
- 奥山和子 (2016)「『異文化理解』授業における学びについての一考察：アクティブラーニングの視点から」『神戸大学留学生センター紀要』22. 107-126.
- 河合成雄 (2004)「留学生インターシッププログラムのあり方とその意義：神戸大学の事例から」『神戸大学留学生センター紀要』10. 51-59.
- 河合成雄 (2005)「海外派遣留学のアドバイジングのあり方についての試論」『神戸大学留学生センター紀要』11. 87-97.
- 河合成雄 (2009)「神戸大学における海外派遣留学の動向と留学相談の方向性」『神戸大学留学生センター紀要』15. 75-87.
- 川上尚恵 (2014)「日中戦争期中国華北の省・特別市公署における日本語学習奨励策について：青島特別市公署の一連の日本語試験を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』20. 1-19
- 川上尚恵 (2015)「中国の大学で日本語教師に求められる教育内容・能力・資質：日本国内の大学等における非母語話者日本語教師養成の検討にあたって」『神戸大学留学生センター紀要』21. 47-65.
- 川上尚恵 (2016)「戦後の日本国内の外国人留学生：1950 ～ 60年代の『留学生教育問題』を中心として」『神戸大学留学生センター紀要』22. 21-40.
- 川上尚恵 (2017)「戦後の留学生に対する日本語教育の展開：政策と教育実践から」『神戸大学留学生教育研究』1. 1-25.
- 川上尚恵 (2018)「地域における留学生教育と国際交流の活性化に向けた神戸大学の取り組み：『兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業』」『神戸大学留学生教育研究』2. 53-78.
- 川上尚恵 (2021)「海外の大学で教える非母語話者日本語教師が必要とするもの：非母語話者の特性を考慮した日本語教師養成プログラム構築に向けて」『神戸大学留学生教育研究』5. 1-21.

- 川上尚恵 (2022)「日本語教育実施機関における日本語教師の育成の取り組み：1960・70年代のAOTSでの取り組みから」『神戸大学留学生教育研究』6. 1-22.
- 河野美抄子 (2013)「教科指導と日本語：日本語指導が必要な聴覚障害生徒のために」『神戸大学留学生センター紀要』19. 43-56.
- 河野美抄子 (2014)「国際文化学部『日本語コミュニケーション』クラスでの実践と課題」『神戸大学留学生センター紀要』20. 75-93.
- 木曾美耶子 (2015)「小説を使用した授業における指導項目の一考察：ドイツの大学のTA活動を通して」『神戸大学留学生センター紀要』21. 59-88.
- 黒田千晴 (2010)「アメリカ合衆国における中国政府の中国語教育普及戦略：メリーランド大学孔子学院の事例を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』16. 19-36.
- 黒田千晴 (2015)「高等教育における米中間の国際教育連携に関する一考察」『神戸大学留学生センター紀要』21. 21-46.
- 黒田千晴, リチャード・ハリソン (2016)「神戸大学におけるバイリンガル国際共修授業：『グローバルリーダーシップ育成基礎演習』の授業設計について」『神戸大学留学生センター紀要』22. 89-105.
- 黒田千晴 (2018)「戦中国における教育の対外開放政策：2000 年代中盤以降の中央レベルの政策文書の検証を中心に」『神戸大学留学生教育研究』2. 1-29.
- 黒田千晴, リチャード・ハリソン (2021)「プロジェクト学習型国際共修授業における教育実践：学習者間の学びを促す仕組みについて」『神戸大学留学生教育研究』5. 45-68.
- 神戸大学百年史編集委員会 (2005)『神戸大学百年史 部局史 神戸大学部局史』神戸大学,
- 神戸大学留学生センター (2009)「学内共同利用施設等の組織に係る評価結果 留学生センター」神戸大学. (<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/uploads/jth2008.pdf>, 2023年12月22日閲覧)
- 神戸大学留学生センター (2013)「留学生センターファクトブック」Ⅰ～Ⅲ 神戸大学. (<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/research-publication/research-publication.html>, 2023年12月22日閲覧)
- 神戸大学留学生センター (2014)「留学生センターファクトブック」Ⅰ～Ⅲ 神戸大学. (<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/research-publication/research-publication.html>, 2023年12月22日閲覧)

- 神戸大学留学生センター（2015）「留学生センターファクトブック」Ⅰ～Ⅲ 神戸大学, (<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/research-publication/research-publication.html>, 2023年12月22日閲覧)
- 神戸大学留学生センター（2015）「学内共同利用施設等の組織に係る評価結果 留学生センター」神戸大学, (<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/uploads/20150320.pdf>, 2023年12月22日閲覧)
- 齊藤美穂（2012）「奄美大島瀬戸内町方言のとりたて助辞『アティム』に関する一考察：標準語の『でも』との比較を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』18, 51-78.
- 齊藤美穂（2013）「奄美大島瀬戸内町方言の格形式：ニ格・デ格相当形式を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』19, 1-21.
- 齊藤美穂（2018）「The Potential of Art Classes for Developing the Language Proficiency of Students Studying Japanese as Their Second Language」『神戸大学留学生教育研究』2, 31-51.
- 齊藤美穂（2018）「受講者アンケートに見る交換留学生の日本語学習ニーズ」『神戸大学留学生教育研究』2, 79-98.
- 齊藤美穂（2018）「『神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラム』を通して日本人学生が得る学び」『神戸大学大学教育研究』26, 41-57.
- 齊藤美穂（2019）「奄美大島瀬戸内方言における中止形の終止用法：平叙文における過去を表す終止形との交替可能性について」『神戸大学留学生教育研究』3, 1-20.
- 阪上彩子（2014）「話し言葉における『そして』の指導法：話し言葉コーパスと初級教科書の分析を通して」『神戸大学留学生センター紀要』20, 61-74
- 實平雅夫, 河合成雄, 瀬口郁子（2004）「キャンパスにおける交流プログラムが日本人学生に与えるインパクト：神戸大学国際学生交流シンポジウムを事例として」『神戸大学留学生センター紀要』10, 85-104.
- 實平雅夫,（2010）「夏期日本語日本文化研修プログラムにおける日本文化講義：日本文化見学旅行に向けた学習」『神戸大学留学生センター紀要』16, 59-72.
- 實平雅夫,（2012）「日本語日本文化教育におけるライティングセンターに関する一考察」『神戸大学留学生センター紀要』18, 37-50.
- 實平雅夫（2017）「日本語教育に関する教員アンケート」『神戸大学留学生教育研究』1, 51-80.

- 四宮愛子 (2023)「遠隔授業による『日本語入門コース』授業の実践例」『神戸大学留学生教育研究』7. 21-37.
- 住田哲郎 (2010)「イメージスキーマによる受身文の分析」『神戸大学留学生センター紀要』16. 1-17.
- 瀬口郁子 (2003)「留学生の危機的状況における教育的援助者の視点：交通事故事例からの一考察」『神戸大学留学生センター紀要』9. 81-98.
- 高梨信乃 (2004)「『必要がある』『必要がない』：評価のモダリティ形式として」『神戸大学留学生センター紀要』10. 39-50.
- 高梨信乃 (2005)「評価のモダリティを表す助動詞『べきだ』」『神戸大学留学生センター紀要』11. 1-15.
- 高梨信乃 (2006)「助動詞『ものだ』『ことだ』：評価のモダリティを表す用法」『神戸大学留学生センター紀要』12. 1-23.
- 高梨信乃 (2007)「評価のモダリティと実行のモダリティ」『神戸大学留学生センター紀要』13. 35-54.
- 高梨信乃 (2011)「行為要求について：日本語教育における問題」『神戸大学留学生センター紀要』17. 1-17.
- 高梨信乃 (2013)「大学・大学院留学生の文章表現における文法の問題：動詞のテイル形を例に」『神戸大学留学生センター紀要』19. 23-41.
- 高梨信乃 (2016)「『つもり(だ)』をめぐって：意志表現の指導の観点から」『神戸大学留学生センター紀要』22. 1-20.
- 建石始 (2007)「中国語母語話者の同時を表す接続助詞の習得について：『ながら』『つつ』『がてら』を中心に」『神戸大学留学生センター紀要』13. 103-115.
- 寺尾智史 (2009)「地方都市における多言語表示：美濃加茂市における南米出身者向け表示を事例として」『神戸大学留学生センター紀要』15. 25-49.
- 寺尾智史 (2011)「留学生宿舎における相談主業務からの考察：これからの留学生受け入れに関する留学生政策に向けて」『神戸大学留学生センター紀要』17. 43-57.
- 寺尾智史 (2016)「大学の世界展開力強化事業における日本語・日本文化教育：ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーシップの育成プログラム」『神戸大学留学生センター紀要』22. 127-145.
- 中西泰洋 (2003)「語彙教育を考える：表現語彙を中心として」『神戸大学留学生センター紀要』9. 45-57.

- 中西泰洋 (2004) 「日本語の表現語彙リストについて」『神戸大学留学生センター紀要』 10. 73-84.
- 中西泰洋 (2007) 「日本語能力試験の語彙について」『神戸大学留学生センター紀要』 13. 79-86.
- 中西泰洋 (2008) 「日本語学習者の漢字・語彙の学習方法について」『神戸大学留学生センター紀要』 14. 21-27.
- 中西泰洋 (2010) 「中国語を母語とする日本語学習者の読解教育を考える」『神戸大学留学生センター紀要』 16. 37-47.
- 中西泰洋 (2012) 「初級日本語の語彙に付く接頭辞『お』と『ご』について」『神戸大学留学生センター紀要』 18. 27-36.
- 永井敦 (2023) 「パラグラフ・ライティングの基本ルール：日本語パラグラフ・ライティング教育の体系化に向けて」『神戸大学留学生教育研究』 7. 1-20.
- 西出郁代 (2003) 「B・R・クラーク著/有本章監訳 (2002)『大学院教育の国際比較』玉川大学出版部」『神戸大学留学生センター紀要』 9. 143-149.
- 野田岳人, 渡辺史央 (2003) 「『日本語学習者のための読解教材専門書を読み解く』に関する一報告」『神戸大学留学生センター紀要』 9. 113-141.
- 野村真紀 (2003) 「Bilingualism and Multilingualism : A Study of Code Switching」『神戸大学留学生センター紀要』 9. 99-111.
- 朴, 鐘祐, 水野マリ子 (2007) 「『夏期日本語日本文化研修プログラム』における国際的教育戦略」『神戸大学留学生センター紀要』 13. 1-19.
- 朴, 鐘祐, 水野マリ子 (2008) 「国際的教育戦略における地域連携の位置づけ：神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラムを中心に」『神戸大学留学生センター紀要』 14. 1-20.
- 朴, 鐘祐, 高梨信乃, 水野マリ子 (2009) 「日本語教育におけるプロジェクトワークの意義と課題：夏期研修コースでの実施事例から」『神戸大学留学生センター紀要』 15. 1-23.
- 朴, 鐘祐, 瀬口郁子 (2009) 「神戸大学の留学生ネットワーク構築の取り組みと展望」『神戸大学留学生センター紀要』 15. 51-73.
- 朴秀娟 (2015) 「韓国人日本語学習者の二格とデ格的誤用について / 韓国人日本語学習者の二格とデ格的誤用について」『神戸大学留学生センター紀要』 21. 1-19.
- 朴秀娟 (2016) 「完全否定を表す副詞『まるで』『ぜんぜん』『まったく』に関する一考察」『神戸大学留学生センター紀要』 22. 41-57.

- 朴秀娟 (2019)「初級日本語教科書における副詞の導入実態について」『神戸大学留学生教育研究』3. 21-34.
- 朴秀娟 (2022)「日本語教科書における副詞の扱いについて」『神戸大学留学生教育研究』6. 23-47.
- 藤田清士 (2005)「留学生会館へのインターネット回線の整備とその意義：国際ナショナルレジデンスの事例」『神戸大学留学生センター紀要』12. 75-85.
- プラシャント・パルデシ (2007)「『日本語-マラーティー語基本動詞用法辞典』作成プロジェクト：インドにおける日本語教育の基礎作りに向けて」『神戸大学留学生センター紀要』13. 87-102 c.
- 水野マリ子 (2003)「初級日本語教育における語彙教育について」『神戸大学留学生センター紀要』9. 59-79.
- 水野マリ子 (2004)「年少者外国人日本語教育について：公立中学校における日本語教育」『神戸大学留学生センター紀要』10. 61-72.
- 水野マリ子 (2005)「中等教育における外国人年少者への日本語教育と教科学習支援：教科授業分析試論」『神戸大学留学生センター紀要』11. 35-54.
- 水野マリ子 (2010)「日本語上級・超級留学生の口頭発表能力に関する一考察：修士課程の留学生について」『神戸大学留学生センター紀要』16. 49-57.
- 水野マリ子, リチャード・ハリソン, 高梨信乃 (2012)「日本語学習支援活動による学生の意識変容について：神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラムを中心に」『神戸大学留学生センター紀要』18. 1-25.
- 水野マリ子 (2013)「大学院学生対象『アカデミック・ライティング（日本語）』授業の課題について」『神戸大学留学生センター紀要』19. 57-66 c.
- 蓑川恵理子 (2020)「留学生と日本人学生との日本語の協同学習：アクティブラーニング型授業を通して」『神戸大学留学生教育研究』4. 33-55.
- 森田耕平 (2019)「留学生に対する日本語アカデミックライティング支援：『兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業』の取り組み」『神戸大学留学生教育研究』3. 35-60.
- 森田耕平 (2020)「存在動詞の第二中止形「いて」の意味・機能」『神戸大学留学生教育研究』4. 1-32.
- 森田耕平 (2021)「オンラインでの日本語アカデミックライティング支援：運営・指導の方法とその成果・課題」『神戸大学留学生教育研究』5. 23-43.
- 山森良枝 (2005)「日本語の<複数可算不定名詞句+動名詞>型複合語について」『神

戸大学留学生センター紀要』 11. 17-33.

山森良枝（2006）「分析的否定疑問文の非分析的ふるまいについて」『神戸大学留学生センター紀要』 12. 25-40.

山森良枝（2007）「尺度性含意と認可のレベル」『神戸大学留学生センター紀要』 13. 55-77.

リチャード・ハリソン（2004）「The Convergence of Community and Communication Online Communities and Japanese Language Education」『神戸大学留学生センター紀要』 10. 1-19.

リチャード・ハリソン, 實平雅夫（2005）「教育理念を具体化するFlexible Classroom (I) : 日本語教育CALL環境の設計・導入」『神戸大学留学生センター紀要』 11. 55-73.

リチャード・ハリソン, 實平雅夫（2006）「Use of an Open Souece Content Management System for Pre-orientation to an Intensive Summer Course in Japanese Language and Culture」『神戸大学留学生センター紀要』 12. 41-48.

リチャード・ハリソン, 實平雅夫（2007）「教育理念を具体化するFlexible Classroom (II) : 学習効果の評価に基づく日本語教育CALL環境の再設計と再評価」『神戸大学留学生センター紀要』 13. 21-33.

リチャード・ハリソン, 實平雅夫（2008）「Evaluation of a Virtual Learning Environment for Pre-orientation to an Intensive Summer Course in Japanese Language and Culture」『神戸大学留学生センター紀要』 14. 29-41.

なお、センター開発教材、外部資金獲得状況については、下記を参照されたい。

<http://www.kisc.kobe-u.ac.jp/research-publication/research-publication.html> (2023年12月22日閲覧)

施設図

2022（令和4）年3月現在、神戸大学百年記念館内に置かれているセンターの施設は下の図（各階中央から右側）のとおりである。それ以降の変更は、各階に記した。



2階は2023（令和5）年10月現在、情報資料室・相談室が国際交流課事務室となり、国際交流課事務室は施設部により改装中



3階は2022（令和4）年4月現在、国際企画課事務室が研究室に、2023（令和5）年10月現在、304が相談室に、会議室B・Cが情報資料室となっている。

